

ワイヤレスブロードバンド推進研究会（第2回） 議事要旨（案）

1 日時

平成16年12月17日（金） 10時00分～12時00分

2 場所

三田共用会議所3階 第3特別会議室

3 出席者（敬称略）

（構成員）

青木昭明、岩崎文夫、桂 靖雄、黒田道子、高木治夫、高野 健、田中善一郎、玉井克哉、辻井重男、永井研二、中村 勉、西尾裕一郎、西岡孝行、古川 享、真野 浩、村上仁己、森 忠久、弓削哲也、吉田和正、若尾正義、富田 二三彦(大森構成員代理)、清水哲司(尾崎構成員代理)、鶴見博史(土井構成員代理)、中村秀治(森山構成員代理)

（総務省）

有富総合通信基盤局長、竹田電波部長、稲田電波政策課長、田中企画官、今井周波数調整官、塩崎検定試験官、根本課長補佐

4 議事

（1）開会

（2）議事

- 1）第1回会合議事要旨(案)について
- 2）ワイヤレスブロードバンドの将来イメージ及び課題
- 3）その他

（3）閉会

5 議事の概要

（1）第1回会合議事要旨（案）について

座長より、資料2-1「ワイヤレスブロードバンド推進研究会第1回会合議事要旨(案)」について、修正点があれば、後日事務局まで連絡願いたい旨及び後日事務局から総務省のホームページに掲載する旨の連絡があった。

（2）ワイヤレスブロードバンドの将来イメージ及び課題について

岩崎構成員より、資料2-2に基づき、第4世代移動通信システムへの取り組みについて説明が行われた。

村上構成員より、資料2-3に基づき、第3世代携帯の次に目指す方向について説明が行われた。

構成員より、携帯電話の定額制等によりデータトラフィックが増加する中で、コストセンシティブのところはどうなる見通しか、との質問があり、構成員からネットワークのコアの部分についてはIP化によりずいぶん下がるが、無線部分については、サービスにかかるコストの回収として様々な手段を考えていく必要があるとの発言があった。

構成員より、MVNOについてどのように考えるか、との質問があり、構成員から、周波数がどのくらいあるのかにもよるが、現時点では、基本的には、自らリスクをとって設備投資を行っていく方針であるとの発言があった。また、構成員から、携帯事業者としては、定額制が進む中で、コストの安いネットワークを構築することが基本であり、そのための技術開発が重要である旨の発言があった。

西岡構成員より、資料2-4に基づき、Freespotの意義とその活用事例について説明

が行われた。

真野構成員より、資料2-5に基づき、ワイヤレスブロードバンド推進の技術課題と方向性について説明が行われた。

田中構成員より、資料2-6に基づき、近未来のコンテンツサービスとワイヤレスブロードバンドへの要望について説明が行われた。

桂構成員より、資料2-7に基づき、次世代情報家電ネットワークについて説明が行われた。

(3) その他

事務局より、参考2-1に基づき、次回以降の会合については第3回会合を平成17年1月18日午前中、第4回会合を2月25日午前中、第5回会合を3月25日午後開催予定とし、詳細は別途連絡する旨の説明があった。

事務局より、第3回会合において、これまでの論点をまとめて議論することとしたい旨の連絡があった。

稲田電波政策課長より、先般の電波有効利用政策研究会の最終報告書の中で、年内を目標として一定の結論を得ることが望ましいとされていた次世代情報家電のための占用周波数帯域の設定という試みについては、桂構成員から資料2-7に基づき説明が行われた情報通信ネットワーク産業協会次世代情報家電ネットワークタスクフォースにおける検討状況をお伺いすると、まだ産業界で検討中の段階のようなので、その議論を見守るとともに、その結論が出るまで総務省としての判断を保留したい旨の発言があった。

(4) 閉会